

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年10月17日

1. BMJ:妊娠中のワクチン接種に関する誤解と情報の混乱のために、27名の妊娠女性がコロナにより死亡したと推計：イギリス
2. 下水サーベイランス情報最新（札幌10月9～15日）

【松崎雑感】

1. 出産に際して亡くなる妊婦さんは日本で毎年数十名おられます。イギリスはその半分くらいと思われれます。コロナなどの感染症でなくなった方がイギリスで27名と言うデータは、とても重大なことです。「予防できる病気で死なないように」できることはすべてやる、と言う点で、コロナやインフルエンザのワクチン接種も重要だという事です。特にエスニックマイノリティの人々に。
2. 札幌の下水サーベイランスでは、「コロナまだまだ大変だ。インフルこれからもっと大変になるだろう」、です。

妊娠中のワクチン接種に関する誤解と情報の混乱のために、27名の妊娠女性がコロナにより死亡したと推計：イギリス

Limb M. Covid-19: Confusion around vaccination during pregnancy likely to have contributed to deaths of 27 women in the UK. *BMJ*. 2023;383:p2388. Published 2023 Oct 13. doi:10.1136/bmj.p2388

コロナパンデミック中に、イギリスでは、妊婦のワクチン接種の安全性について誤った情報が流され、ワクチンヘジタンスの影響もあり、27名の女性がコロナで死亡したという推計を専門家グループが発表した。

専門家は、妊娠時であってもコロナワクチンを積極的に接種すべきであると呼び掛けている。

新型コロナウイルスで死亡した妊娠女性は、ワクチン2回接種の対象者だった。接種しないと言明した場合もあれば、ワクチン接種に関する書類を受け取っていなかった場合もあったという。また、コロナワクチン接種回数が1回だった女性もあれば、インフルエンザで死亡したインフルエンザワクチン未接種の女性もいた。

Oxford Population Health's National Perinatal Epidemiology Unit (オックスフォード国立周産期疫学ユニット) と MBRRACE-UK コアリションが共同で行った調査では、2019年から2021年の間に妊娠中に死亡した女性の状況を分析した (MBRRACE-UK. Saving lives improving mothers' care—lessons learned to inform maternity care from the UK and Ireland Confidential Enquiries into Maternal Deaths and Morbidity 2019-21. October 2023. www.npeu.ox.ac.uk/mbrance-uk/reports.)。それによれば、黒人およびアジア系妊娠女性が歴史的に差別を受けていることが、今回の問題の背景にあることが明らかとなった。

2019年から21年の間に死亡した妊娠女性の最大死因は新型コロナウイルス感染だった。しかも人種的マイノリティの人々が多数だった (33名中14名がアジア系、5名が黒人)。

MBRRACE-UK coalitionは、コロナパンデミックがヘルスケアシステムの不公平問題を浮き彫りにし、妊娠中のワクチン接種に関する論議が再び引き起こされたと考えている。

その最近の報告書では、「コロナワクチンの安全性が十分に確認できないことにより、医師ととりわけエスニックマイノリティの妊娠女性の間、ワクチンヘジタンシーが高まったことで、適切な情報を発信する上での混乱が生じたことが明らかだ」と述べている。

「その結果妊娠女性の感染死がもたらされたわけだ。しかし、今後このようなことが起きないように準備がなされているのか疑問だ。問題はコロナだけではない。インフルエンザのようなワクチンで死亡の予防可能な感染症で命を落とす妊娠女性がいる。妊娠女性に対してワクチン接種の意義を明確に伝える必要がある」

専門家グループは、「これらの人々に対して、新たなワクチンと治療法に関する情報を迅速に伝えて、必要なワクチン接種と治療ケアを受けるように勧めること、そしてとりわけインフルエンザ、新型コロナウイルス、敗血症のリスク喚起を重点的に行う必要がある。さらに、妊娠中あるいは授乳中の女性が新しいワクチン接種と臨床トライアルの対象から不適切に除外されないようにすることが重要だ」と勧告している。

MBRRACE-UK collaborationは、臨床スタッフが、妊娠中の薬剤の投与のリスクとベネフィットについて適切な説明を行い、妊娠女性が適切なインフォームドチョイスができるように導くトレーニングを十分に受けているとは言えないと指摘している。これは、出産後に様々な重い問題を抱えた女性が真に必要な医療ケアを受けられないという結果につながる、と。

妊娠女性が新型コロナに感染した場合、妊娠しているという理由で、死亡と重症化を防ぐことのできるトシリズマブなどの抗ウイルス薬あるいはステロイドホルモン投与、あるいはECMO治療から除外される場合が多かった。

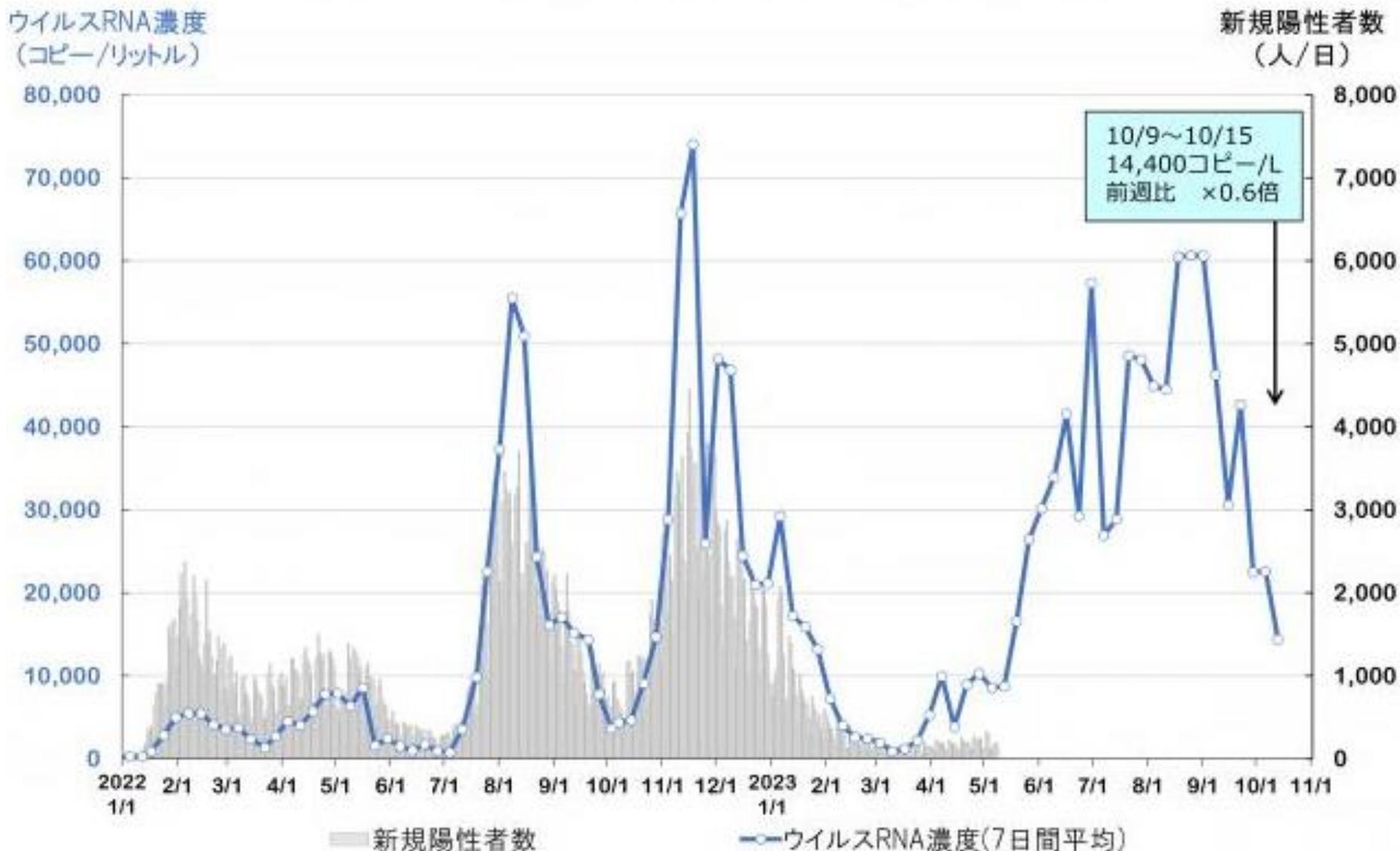
医療チームは、妊娠女性の診断と治療をどうすべきかに関する確固としたポリシーを持たずにいた。これを解決するには、妊娠中と出産後の治療ケアについて、証拠に基づいた対応ができるようにするトレーニングが必要である。

Oxford Population Healthの妊婦と小児保健教授マリアン・ナイト氏は、「妊娠中、妊娠予定、授乳中の女性が、適切な診断と治療ケアを受けていない不公平な状況が明らかになった。もし適切な治療ケアを受けていれば、死亡した妊娠女性の52%は救命できた可能性がある。したがって、妊娠女性の死亡を防ぐための対策にしっかり力を入れる必要がある」と語った。

王立助産師大学はすべての妊娠女性が自身と子どもの命を守るためにコロナワクチンを接種するよう呼び掛けている。王立助産師大学学長ジル・ウォルトン氏は「助産師、産科医、産科医療機関などすべてのスタッフと組織が、黒人とアジア系および貧困層の妊娠女性が医療差別を受けている現状を転換するために努力しなければならない」と語った。

コロナウイルス濃度は減少傾向にありますが、高い水準を継続しており、引き続き注意が必要です。

下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）

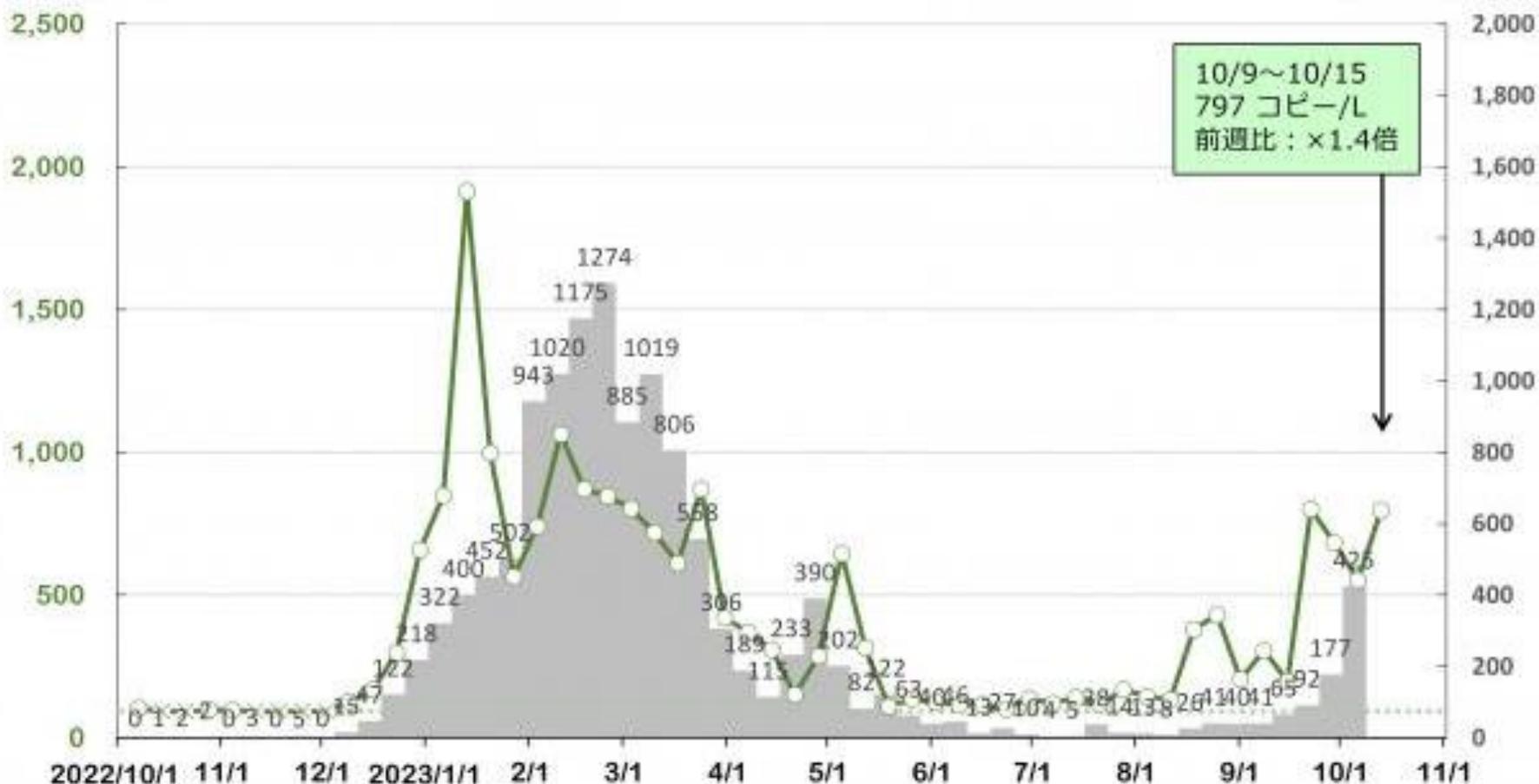


インフルエンザウイルス濃度が前週より増加しており、今後の動向に注意が必要です。

下水サーベイランスの結果（インフルエンザウイルス）

ウイルスRNA濃度
(コピー/リットル)

定点医療機関の
患者報告数(人/週)



10/9~10/15
797 コピー/L
前週比：×1.4倍

■ 定点医療機関の患者報告数 ※3
 検出限界(93コピー/L)
 ●—○ ウイルスRNA濃度(7日間平均)
 × は不検出 (93コピー/L未満) を示す